

---

## 1 まちづくりの課題

---

# 1 まちづくりの課題

## (1) 人口減少時代に対応できるまちづくりの取組み

～中心市街地等のコンパクトな市街地形成と集落における地域コミュニティ機能の維持～

本市は人口が減少し全市的には人口密度が低下する中、特に中心市街地を中心とする人口集中地区の人口は増加し、人口密度が高まっています。

また、市民意識調査結果の『今後の居住地の意向』において、「南国市外へ移り住みたい」が約 15%、「南国市内で移り住みたい」が約 12%と移住を希望する人が一定比率います。

このことを踏まえ、居住環境の向上や良質な住宅地の供給とともに、各種生活サービス施設を充実させ、現在の子育て世代を中心とする中心市街地等への集住が今後も継続するように人々を誘導することによるコンパクトな市街地の形成が必要になっています。

一方、本市は人口の半数以上が市街化調整区域等に居住していますが、市街化調整区域においては人口減少が続いています。また、市民意識調査結果において、「現在の場所に、住み続けたい。」と回答する市民は約 60%と多くなっています。

このことから、人口減少が続く市街化区域外の集落においては、農地や森林等の保全を図りつつ、地域のコミュニティ機能を維持できるようにまちづくりを進めることが必要となっています。

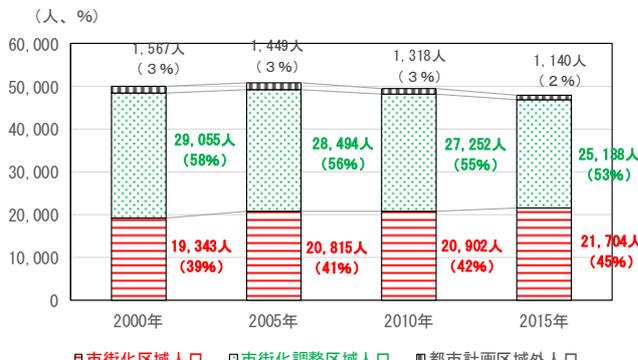
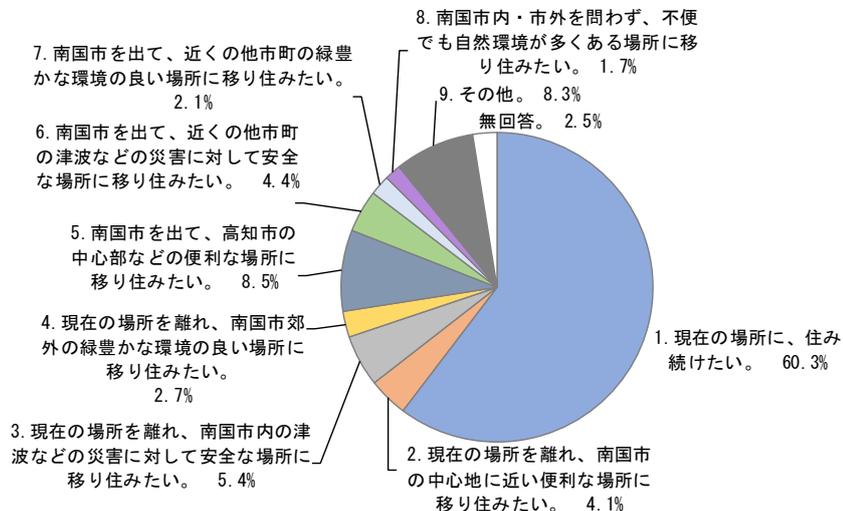


図 本市の区域区分別人口の推移



図 本市の人口集中地区の人口推移



資料：市民意識調査（2017年）

図 市民の「今後の居住地の意向」

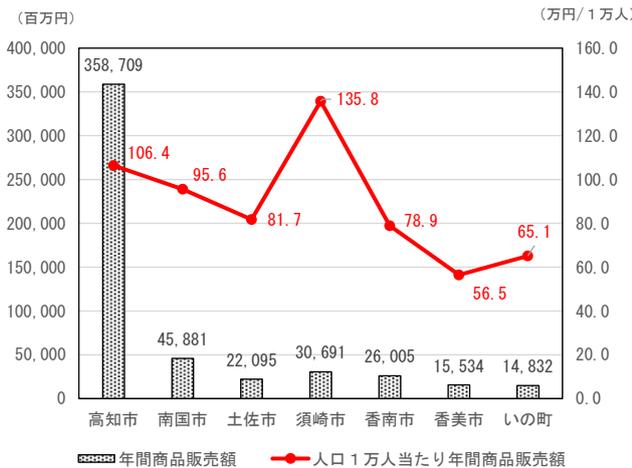
## (2) 伸び悩む商業の持続的な発展と賑わいの創出

本市の小売業は、高知市に次ぐ年間商品販売額となり、一定の商業集積を有しています。しかし、市民1万人当たりの年間商品販売額は須崎市、高知市に次いで第3位に留まり、本市小売業の年間商品販売額は1999（平成11）年～2012（平成24）年にかけて減少傾向となっています。

市民意識調査結果（2017（平成29）年度）の生活行動をみると、『食料品、日用雑貨によく利用する場所』は市内が高い比率を占めていますが、『友人等との会合・会食によく利用する場所』などの非日常的な行動では高知市が本市を大きく上回っています。

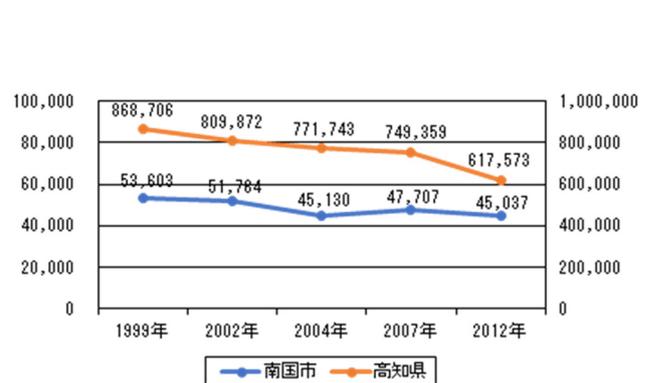
また、市民意識調査結果の『南国市中心部（後免町～市役所周辺）のまちづくりの重要事項』では「さまざまなサービスが受けられるよう、商業・文化・福祉などの施設を充実させる。」が約59%と最も多く、『南国市の今後の商業地における重要施策』において「大規模な複合商業施設などを誘致し、新たな商業の拠点をつくる。」が約33%、「魅力ある余暇・レクリエーション施設を誘致する。」が約16%と多くなっています。

これらのことから、本市において市民の余暇等の多様なニーズに対応できる商業・サービス施設の集積を誘導するとともに、中心ゾーンやシンボルロードなどの明確な顔づくりを図り、賑わいを創出することが必要となっています。



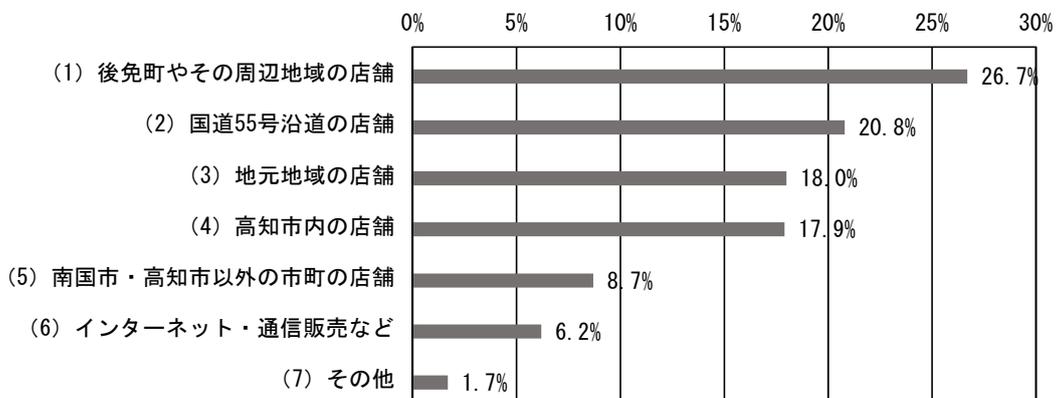
資料：商業統計表（2014年）

図 本市及び周辺都市の商業（小売業）の年間販売額の比較



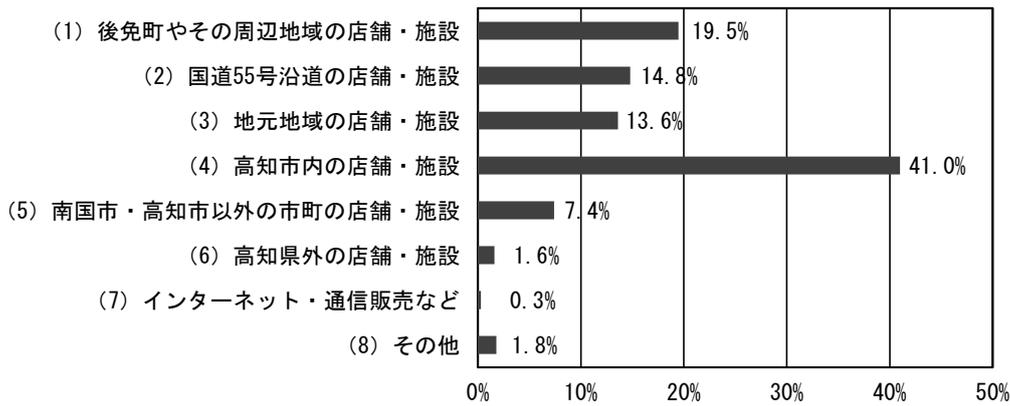
資料：商業統計調査（1999年～2007年）  
経済センサス（2012年）

図 商業（小売業）の年間販売額の推移



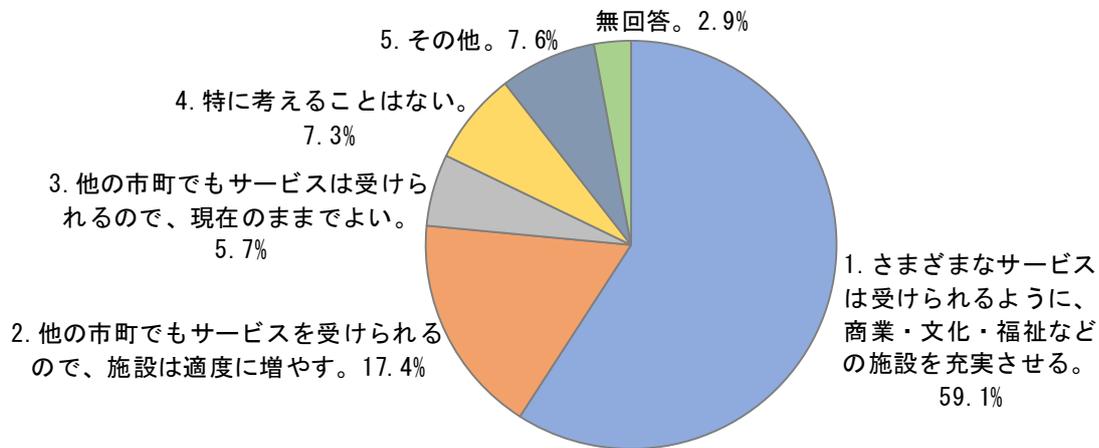
資料：市民意識調査（2017年）

図 食料品・日用雑貨の買物によく利用する場所



資料：市民意識調査（2017年）

図 友人等との会合・会食によく利用する場所



資料：市民意識調査（2017年）

図 南国市中心部（後免町～市役所周辺）のまちづくりの重要事項

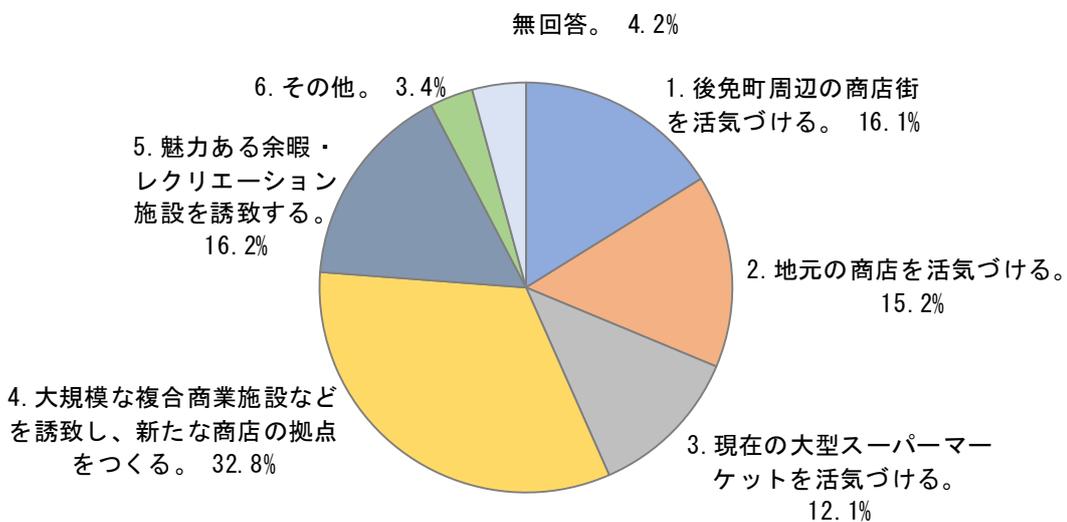


図 南国市の今後の商業地における重要施策

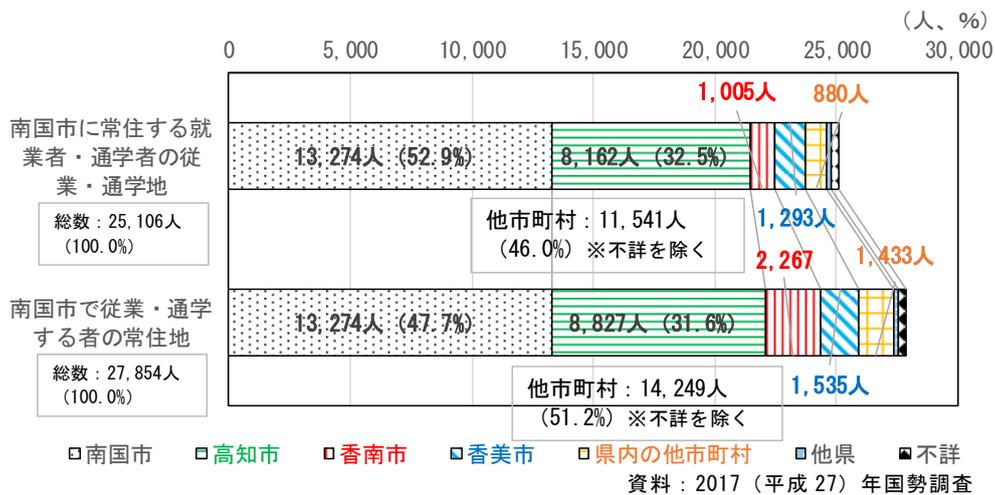
### (3) “高知の玄関都市”の立地条件を活かした産業のより一層の発展

本市に常住する就業者・通学者は高知市等の市外を従業地・通学地とする人が約47%を占める一方、本市で従業・通学する者で高知市等の市外を常住地とする人が約52%を占め、従業者・通学者は本市への流入者数が本市からの流出者数を上回っています。このことから、本市において多様な就業地が形成されています。

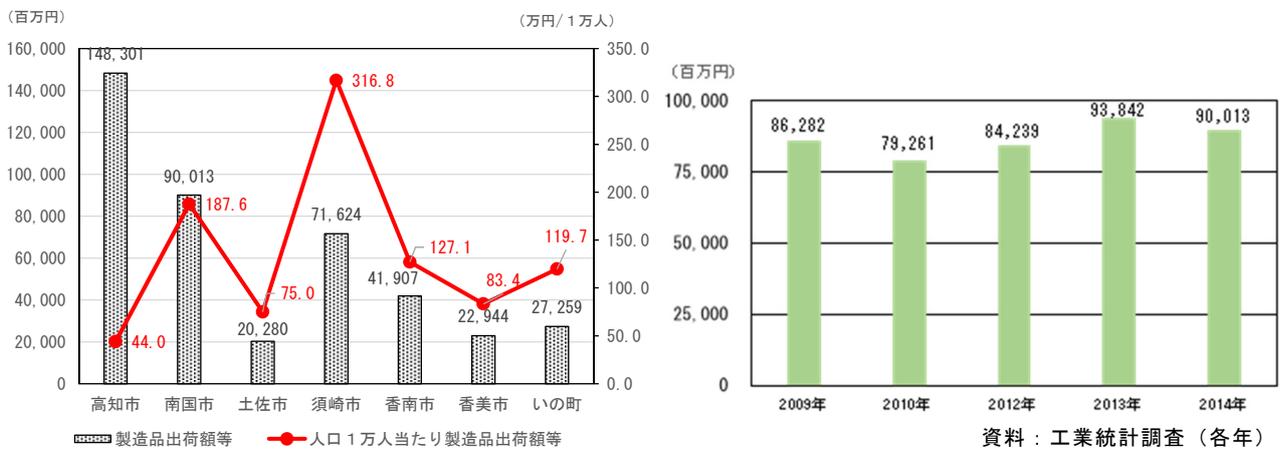
また、本市は、高知市に次ぐ製造品出荷額等を有し、2009（平成21）年～2014（平成26）年における製造品出荷額は横ばい若しくは微増傾向となるとともに、多数の流通団地が市内に立地し、工業・流通業務が発展しています。

一方、本市において、人口減少の中、転出人口の抑制とともに転入人口の増加を図るためには多様な雇用の場の確保、拡充が求められています。また、規模拡大や、南海トラフ地震による津波浸水想定区域から安全な場所への移転の計画など、事業所移転の動きがみられます。

このことから、農業等との調和を図りながら産業用地の供給余力を確保して企業誘致等を促進し、“高知の玄関都市”として工業・流通業等の多様な産業を今後も発展させることが必要となっています。



資料：2017（平成27）年国勢調査



資料：2014（平成26）年高知県の工業（従業者数4人以上）

資料：工業統計調査（各年）

図 本市及び周辺都市の工業の製造品出荷額等の比較

#### (4) 市民の満足度が低い都市施設の整備促進

本市において都市計画道路の整備率（改良+概成、以下同じ）は75.4%、うち市街化区域内における整備率は72.5%となり、高知市等と比較して低いものの、都市全体の全国平均74.1%、市街化区域の全国平均78.4%とほぼ同様の整備水準となっています。

しかし、市街化区域における都市計画道路の配置密度は、計画延長が2.8km/km<sup>2</sup>、整備済延長が2.0km/km<sup>2</sup>で、全国平均の計画延長3.2km/km<sup>2</sup>、整備済延長2.5km/km<sup>2</sup>を下回っています。また、市道改良率は44.0%（2014（平成26）年度、第4次南国市総合計画より）となっています。

一方、公共下水道は、都市全体の整備率が20.4%、うち市街化区域内における整備率が21.3%となっており、高知市等を下回り、都市全体の全国平均77.3%、市街化区域の全国平均82.0%を大きく下回っています。また、市街化区域面積に対する排水区域面積の比率でも全国平均を下回っています。

また、市民意識調査結果（2017（平成29）年度）においては、周辺環境の中で「生活道路の整備」「下水道の整備」「公園や広場の整備」に対する満足度が低くなっています。

これらのことから、中心市街地周辺に集住を誘導するために必要な良質な住宅地や各種都市機能用地の供給を促進する上で、道路、下水道等の都市施設の整備を計画的に推進することが必要となっています。

表 都市計画道路の計画、整備状況（南国市：2016（平成28）年3月31日現在）

区分	計画		改良		概成		改良+概成		
	全体	うち、市街化区域幹線街路	全体	うち、市街化区域幹線街路	全体	うち、市街化区域幹線街路	全体	うち、市街化区域幹線街路	
	km	km	km	km	km	km	km	km	
全国計 (H27)	72,521.41	46,250.52	46,112.04	31,277.20	7,629.85	4,992.39	53,741.88	36,269.59	
高知広域 (H27)	285.59	177.40	211.99	140.20	13.49	3.72	225.48	143.92	
高知市 (H27)	201.69	145.11	159.18	118.38	8.91	3.64	168.09	122.02	
南国市	(H28)	<b>54.29</b>	<b>14.92</b>	<b>36.46</b>	<b>10.82</b>	<b>4.50</b>	<b>0.00</b>	<b>40.96</b>	<b>10.82</b>
	(H27)	<b>54.29</b>	<b>14.92</b>	<b>36.46</b>	<b>10.82</b>	<b>4.50</b>	<b>0.00</b>	<b>40.96</b>	<b>10.82</b>
香美市 (H27)	16.31	10.16	11.12	8.15	0.08	0.08	11.20	8.23	
いの町 (H27)	13.30	7.21	5.23	2.85	0.00	0.00	5.23	2.85	

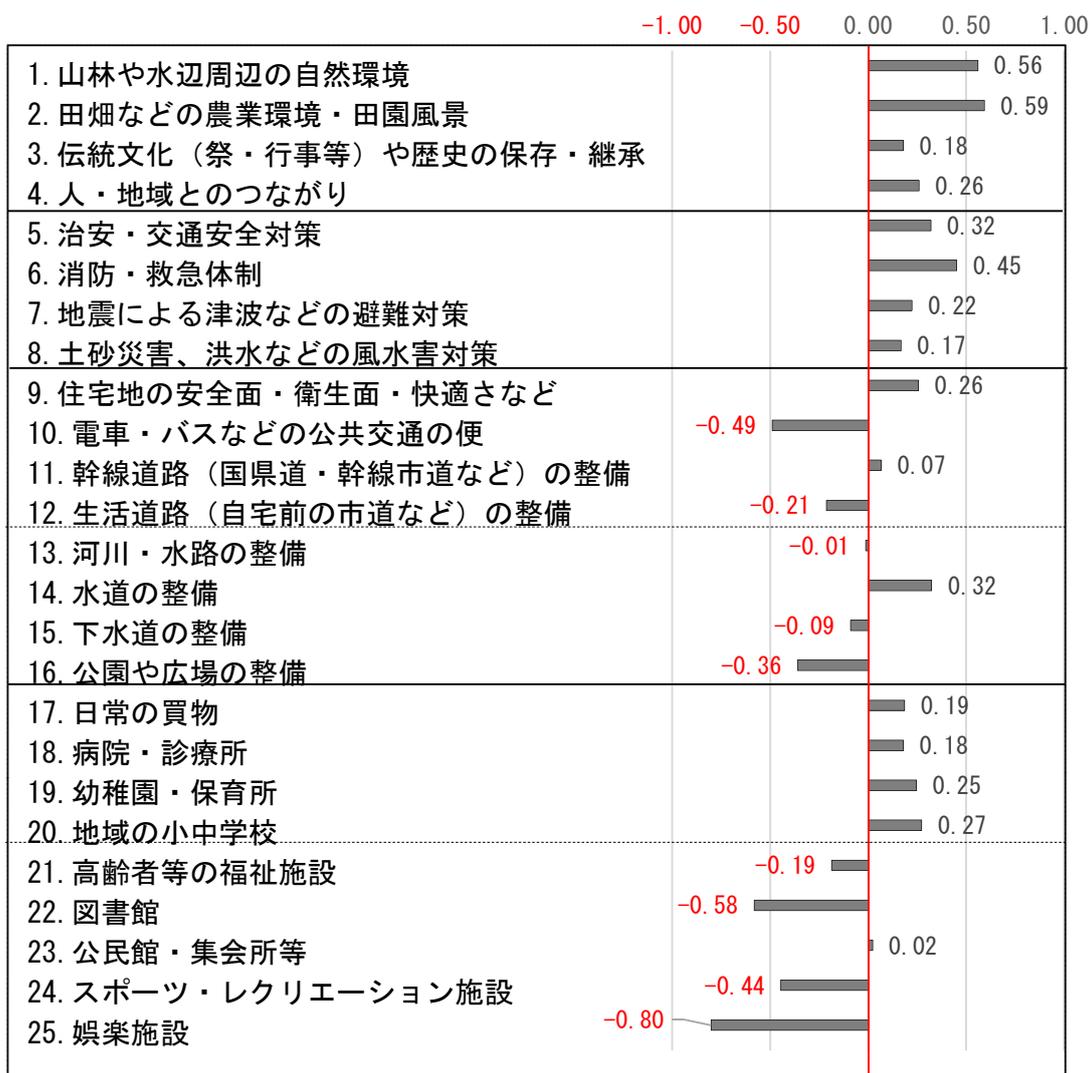
区分	改良率		整備（改良+概成）率		市街化区域幹線街路の配置密度		市街化区域面積 ha
	全体	うち、市街化区域幹線街路	全体	うち、市街化区域幹線街路	計画延長	整備（改良+概成）延長	
					km/km <sup>2</sup>	km/km <sup>2</sup>	
全国計 (H27)	63.6%	67.6%	74.1%	78.4%	3.2	2.5	1,448,850
高知広域 (H27)	74.2%	79.0%	79.0%	81.1%	2.9	2.3	6,190
高知市 (H27)	78.9%	81.6%	83.3%	84.1%	2.9	2.4	5,072
南国市	(H28)	<b>67.2%</b>	<b>72.5%</b>	<b>75.4%</b>	<b>2.8</b>	<b>2.0</b>	<b>540</b>
	(H27)	<b>67.2%</b>	<b>72.5%</b>	<b>75.4%</b>	<b>2.8</b>	<b>2.0</b>	<b>540</b>
香美市 (H27)	68.2%	80.2%	68.7%	81.0%	4.5	3.7	225
いの町 (H27)	39.3%	39.5%	39.3%	39.5%	2.0	0.8	353

資料：平成27年都市計画現況調査（国土交通省）2015年3月31日現在  
平成28年都市計画現況調査（高知県）2016年3月31日現在

表 公共下水道の計画、整備状況（2015（平成27）年3月31日現在）

区 分	計画		供用		整備率		市街化区域面積 に対する比率		市街化区域 面積 ha
	全体	うち、市街 化区域	全体	うち、市街 化区域	全体	うち、市街 化区域	計画	供用	
	ha	ha	ha	ha					
全 国 計	1,990,277	1,622,669	1,539,322	1,330,646	77.3%	82.0%	112.0%	91.8%	1,448,850
高知広域	5,863	5,753	4,272	4,247	72.9%	73.8%	92.9%	68.6%	6,190
高知市	4,907	4,891	3,853	3,850	78.5%	78.7%	96.4%	75.9%	5,072
南国市	411	395	84	84	20.4%	21.3%	73.1%	15.6%	540
香美市	286	219	219	208	76.6%	95.0%	97.3%	92.4%	225
いの町	259	248	116	105	44.8%	42.3%	70.3%	29.7%	353

資料：平成27年都市計画現況調査（国土交通省）2015年3月31日現在



資料：市民意識調査（2017年）

注：「満足」：+2点、「やや満足」：+1点、「ふつう」：0点、「やや不満」：-1点、「不満」：-2点とし、合計点数を回答票数で除した平均値を満足度の評価点として整理しています。

図 お住まいの周辺環境の項目別満足度

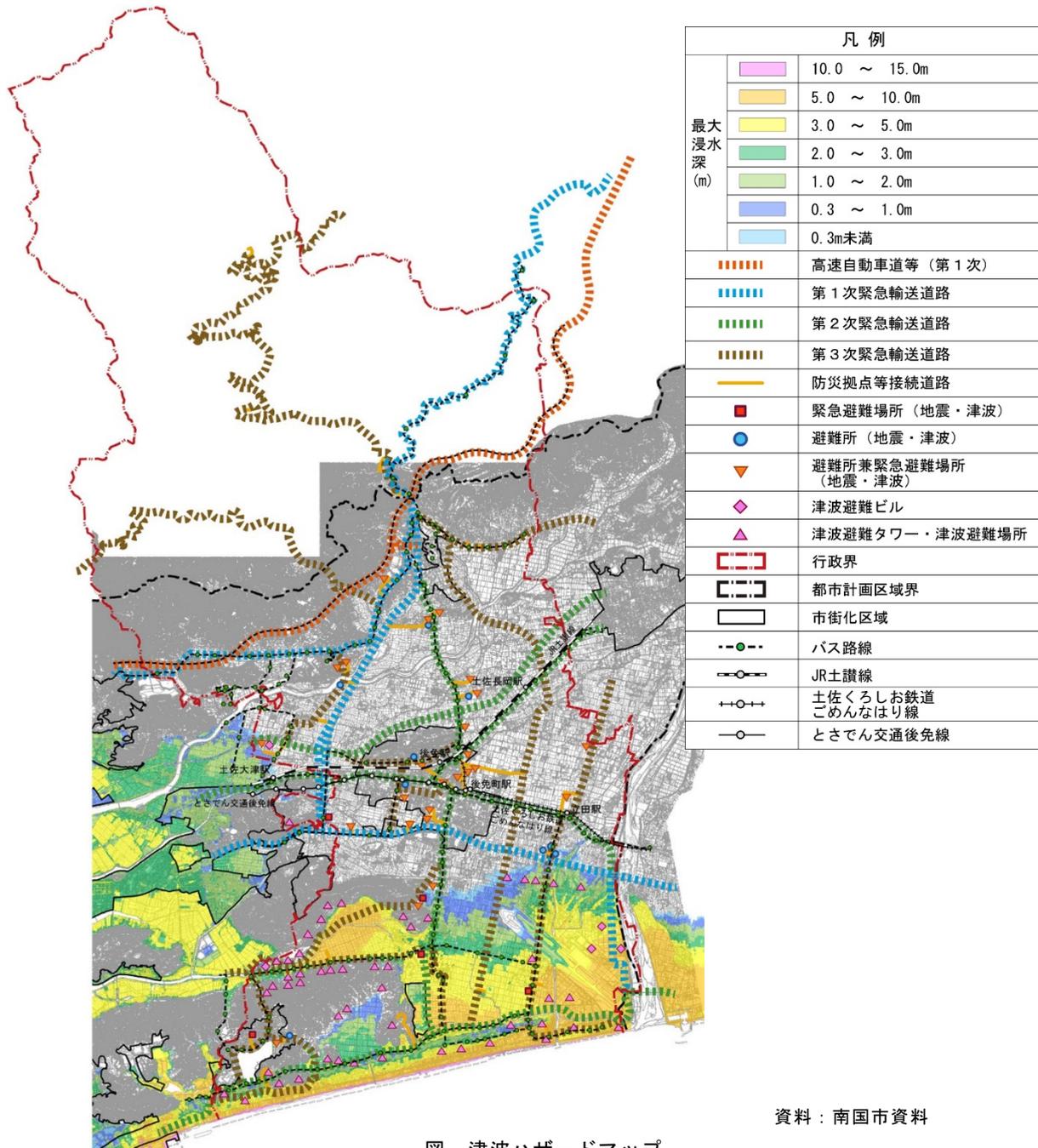
## (5) 南海トラフ地震等の災害への備え

本市の南部は、南海トラフ地震による津波浸水想定区域となっています。

この対策として、海岸部等で津波避難タワーが整備されているほか、避難所及び緊急避難場所が指定されています。また、災害時の緊急輸送道路が市内の道路に設定されています。

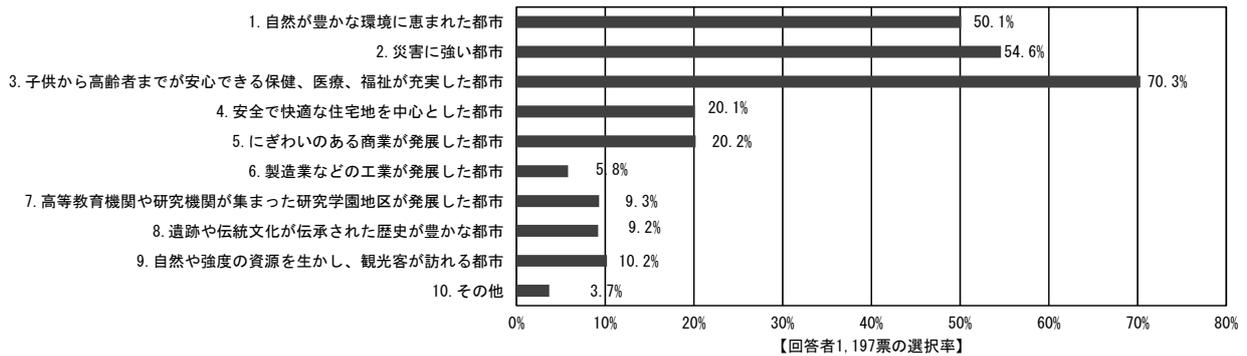
一方、市民意識調査結果（2017（平成29）年度）の『本市が目指すべき都市の目標としての都市イメージ』において「災害に強い都市」が約55%（選択率）と第2位になり、市民から災害に対する安全性の確保が強く求められています。

このことから、南海トラフ地震等の災害に対する予防対策、避難計画・体制、復興計画の策定など、災害に備えた防災・避難・復旧計画の確立が必要となっています。



資料：南国市資料

図 津波ハザードマップ



資料：市民意識調査（2017年）

図 本市が目指すべき都市の目標としての都市イメージ

## （6）「土佐のまほろば」としての郷土資源の保全・活用の促進とまちなみ景観の形成

本市は、豊かな自然とともに歴史・文化資源が豊富に残る「土佐のまほろば」（素晴らしい場所、住みやすい場所）と言われています。

市民意識調査結果（2017（平成29）年度）の『本市が目指すべき都市の目標としての都市イメージ』において、「自然が豊かな環境に恵まれた都市」が50.1%（選択率）と第3位になり、市民から郷土の自然資源等の保全、活用が求められています。

市民が誇りと愛着を持って本市に住み続けてもらえるような環境を整えるためには、郷土の自然・歴史・文化資源を守り育てることが必要であるとともに、若者や子育て世代などの居住を誘導する上では、良質な居住環境とともに魅力や愛着を感じるまちなみ景観の形成が必要となっています。

これらのことから、郷土の自然・歴史・文化資源の保全、活用をより一層促進するとともに、魅力や愛着を感じるまちなみ景観を形成することが必要となっています。